平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月5日

上場会社名 フィールズ株式会社　　上場取引所 JQ
コード番号 2767　URL http://www.fields.biz/
代表者 （役職名）代表取締役社長　（氏名）大屋 高志
問合せ先責任者 （役職名）執行役員コーポレートコミュニケーション室長　（氏名）畑中 英昭　TEL 03-5784-2111
四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日　配当支払開始予定日 平成21年12月4日

（百万円未満切捨て）

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績（平成21年4月1日～平成21年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）　（%表示は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	21,444	△48.4	5,386	65.6	5,051	67.1	2,181	158.1
21年3月期第2四半期	41,590	—	3,252	—	3,023	—	845	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	6,486.89	—
21年3月期第2四半期	2,436.14	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	56,611	41,784	73.6	123,896.73
21年3月期	52,064	39,496	75.8	117,326.58

（参考）自己資本　22年3月期第2四半期 41,673百万円　21年3月期 39,463百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	2,000.00	—	2,500.00	4,500.00
22年3月期	—	2,000.00			
22年3月期（予想）			—	2,500.00	4,500.00

（注）配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	70,000	△4.2	10,000	410.2	10,000	909.1	4,500	—	13,378.64

（注）連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

（注）詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4.その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの）

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	22年3月期第2四半期	347,000株	21年3月期	347,000株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	10,643株	21年3月期	10,643株
③ 期中平均株式数（四半期連結累計期間）	22年3月期第2四半期	336,357株	21年3月期第2四半期	347,000株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成21年5月12日発表の連結業績予想の修正は行っていません。上記の予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件等については、6ページ【定性的情報・財務諸表等】3.連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

・定性的情報・財務諸表等

1.　連結経営成績に関する定性的情報

(1) 当第２四半期連結累計期間の概況

21世紀の成熟化する日本社会において、人々の余暇時間は確実に増加し、これからもその傾向は続くものと認知されています。人々は、その嗜好によって時間消費の多様なニーズを生み出しており、ここには、多くのビジネスチャンスが存在しています。

「すべての人に最高の余暇を」という企業理念を掲げる当社及び当社グループは、この増加をたどる余暇に対して商品・サービスを提供する企業グループであり、人々の生活や環境等の変化を研究、分析、予測することでビジネスチャンスを見いだし、事業活動を展開しています。

当第２四半期連結累計期間（４月－９月）の連結業績は、売上高21,444百万円（前年同期比 48.4%減）、営業利益5,386百万円（同65.6%増）、経常利益5,051百万円（同67.1%増）、四半期純利益2,181百万円（同158.1%増）となり、収益面では計画を上回りました。

なお、当第２四半期連結累計期間においては、大阪支店の整備に伴う事務所移転損失引当金繰入額等を特別損失として477百万円を計上しています。

各フィールドの状況は以下の通りです。

(2) 当第２四半期連結累計期間の事業の種類別セグメント分析

①　ＰＳ・フィールド

全国のパチンコホールにおいては、健全化及びファン層の拡大に向けて、液晶の表現力をより高めた遊技機やゲーム性に工夫を凝らした遊技機が登場し、引き続きミドルタイプのパチンコ遊技機を中心とした導入が進みました。一方、パチスロ遊技機においては、各パチスロメーカーの開発努力等によって、ゲーム性やエンタテインメント性が高められた遊技機の導入が徐々に進み、パチスロ市場において底打ち感が見受けられる環境となりました。このように現在のパチンコ産業は、ホールの様々な経営努力やメーカーによる射幸性の自主的な抑制、遊技機のエンタテインメント化など、より時間消費型レジャーとして成長すべく様々な取り組みを続けています。

第１四半期（４月－６月）においては、パチンコ遊技機販売事業では、大型タイトルのパチンコ遊技機「CR新世紀エヴァンゲリオン～最後のシ者～」が市場から高い評価を頂き、同シリーズの最高販売台数である累計237,000台販売と好調な結果となりました。一方、パチスロ遊技機販売事業では、2機種を投入しました。

第２四半期（７月－９月）においては、独立系流通企業の強みを生かし、株式会社銀座製パチンコ遊技機「CR昭和伝説 三波春夫」をはじめとした様々なメーカーの遊技機販売を行いました。

以上の結果、当第２四半期連結累計期間のパチンコ遊技機総販売台数は266,284台、パチスロ遊技機総販売台数は7,860台となり、ＰＳ・フィールドの売上高は19,415百万円、営業利益は5,407百万円となりました。

②　スポーツエンタテインメント・フィールド

第１四半期においては、前期に実施したスポーツビジネス全般の抜本的な見直し効果が現れ、概ね予定通りに推移しました。

第２四半期においては、新たな体制のもと収益力強化に向けた施策を進めました。また、ソリューション事業の「トータル・ワークアウト」では、バンクーバー冬季オリンピックへの出場を目指す選手達の強化サポートを開始するなど、新たな商品プログラムの企画開発等のサービス品質向上施策を進めました。

以上の結果、スポーツエンタテインメント・フィールドの売上高は1,181百万円、営業損失は162百万円となりました。

③　モバイル・フィールド

第１四半期においては、株式会社フューチャースコープが運営する携帯コンテンツにおいて、既存提供サービスの携帯キャリア拡充や、Ｅコマース事業において拡販を行うなどの活発な事業展開を行いました。

第２四半期においては、同社の主力携帯コンテンツである「フィールズモバイル」の有料会員数は約43万人（平成21年９月末）となり、入会促進及び退会抑制に向けた施策を図るとともに、コンテンツ商品群の強化と新規サービスの検討を推進しました。

以上の結果、モバイル・フィールドの売上高は991百万円、営業利益は247百万円となりました。

④　その他・フィールド

第１四半期においては、アニメーションの企画・制作及びプロデュースを目的としたルーセント・ピクチャーズエンタテインメント株式会社では、ＰＳ・フィールドにおけるアニメーションクオリティアップを図るグループシナジー事業に積極的に関与しました。

第２四半期においては、引き続きＰＳ・フィールドとのグループシナジーを図る一方、同社が有する技術であり、次世代の映像表現として世界的に注目を集めている立体映像技術における事業化の検討を進めました。

以上の結果、その他・フィールドの売上高は259百万円、営業損失は17百万円となりました。

（注）　各セグメントの売上高には、内部売上高又は振替高を含んでいます。

2.　連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

（資産の部）

流動資産は、30,046百万円と前連結会計年度末比4,911百万円の増加となりました。これは主に現金及び預金の増加によるものです。

有形固定資産は、10,278百万円と前連結会計年度末比620百万円の減少となりました。これは主に東京事務所の建物及び土地等の売却によるものです。

無形固定資産は、2,483百万円と前連結会計年度末比277百万円の減少となりました。

投資その他の資産は、13,803百万円と前連結会計年度末比534百万円の増加となりました。これは主に投資有価証券の評価差額の増加によるものです。

以上の結果、資産の部は56,611百万円と前連結会計年度末比4,546百万円の増加となりました。

（負債の部）

流動負債は、10,165百万円と前連結会計年度末比2,618百万円の増加となりました。これは主に利益の増加に伴う未払法人税等の増加、預り金の減少によるものです。

固定負債は、4,661百万円と前連結会計年度末比359百万円の減少となりました。これは主に社債の償還によるものです。

以上の結果、負債の部は14,827百万円と前連結会計年度末比2,258百万円の増加となりました。

（純資産の部）

純資産の部は、41,784百万円と前連結会計年度末比2,287百万円の増加となりました。これは主に利益剰余金の増加によるものです。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第２四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ8,602百万円増加し、19,784百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、10,160百万円（前年同期は2,260百万円の支出）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益4,647百万円、法人税等の還付2,599百万円、売上債権の減少2,255百万円、預り金の減少1,406百万円等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、350百万円（前年同期は5,127百万円の支出）となりました。これは主に有形固定資産の売却による収入615百万円、貸付けによる支出352百万円、有形固定資産の取得による支出340百万円等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、1,199百万円（前年同期は5,312百万円の収入）となりました。これは主に配当金の支払838百万円、社債の償還による支出360百万円等によるものです。

3.　連結業績予想に関する定性的情報

平成21年５月12日に開示しました通期の業績予想に変更はありません。

	平成22年３月期 見通し	平成21年３月期 実績	前年同期比
売上高	70,000百万円	73,035百万円	4.2%減
営業利益	10,000百万円	1,960百万円	410.2%増
経常利益	10,000百万円	991百万円	909.1%増
当期純利益	4,500百万円	△1,481百万円	―

4.　その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①　一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第２四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しています。

②　棚卸資産の評価方法

当第２四半期連結会計期間末の棚卸高の算出については、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっています。

③　繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっています。

④　連結会社相互間の債権債務及び取引の相殺消去

連結会社相互間の債権と債務を相殺消去するにあたり、当該債権の額と債務の額に差異が見られる場合には、合理的な範囲内で、当該差異の調整を行わないで債権と債務を相殺消去しています。

連結会社相互間の取引を相殺消去するにあたり、取引金額に差異がある場合で、当該差異の重要性が乏しいときには、親会社の金額に合わせる方法により相殺消去しています。

⑤　税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5.【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

（単位：百万円）

	当第２四半期連結会計期間末 （平成21年９月30日）	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 （平成21年３月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,784	11,181
受取手形及び売掛金	2,859	4,324
たな卸資産	1,238	963
その他	6,230	8,743
貸倒引当金	△65	△77
流動資産合計	30,046	25,135
固定資産		
有形固定資産		
土地	5,934	6,514
その他	4,343	4,384
有形固定資産合計	10,278	10,898
無形固定資産		
のれん	282	326
その他	2,200	2,435
無形固定資産合計	2,483	2,761
投資その他の資産		
投資有価証券	8,934	7,989
その他	5,093	5,535
貸倒引当金	△224	△256
投資その他の資産合計	13,803	13,268
固定資産合計	26,564	26,929
資産合計	56,611	52,064
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,946	1,981
1年内償還予定の社債	720	720
1年内返済予定の長期借入金	－	61
未払法人税等	2,520	263
賞与引当金	41	211
役員賞与引当金	122	245
受注損失引当金	11	－
事務所移転損失引当金	393	9
その他	3,408	4,056
流動負債合計	10,165	7,547
固定負債		
社債	1,870	2,230
退職給付引当金	246	221
その他	2,544	2,569
固定負債合計	4,661	5,021
負債合計	14,827	12,568

（単位：百万円）

	当第２四半期連結会計期間末 （平成21年９月30日）	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 （平成21年３月31日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	7,994	7,994
利益剰余金	27,149	25,808
自己株式	△1,330	△1,330
株主資本合計	41,761	40,420
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△88	△956
為替換算調整勘定	0	△0
評価・換算差額等合計	△88	△957
少数株主持分	110	32
純資産合計	41,784	39,496
負債純資産合計	56,611	52,064

(2)【四半期連結損益計算書】
【第２四半期連結累計期間】

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成20年４月１日 至　平成20年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成21年４月１日 至　平成21年９月30日）
売上高	41,590	21,444
売上原価	27,068	8,335
売上総利益	14,522	13,109
販売費及び一般管理費	11,269	7,722
営業利益	3,252	5,386
営業外収益		
受取利息	23	5
受取配当金	106	82
還付加算金	－	71
為替差益	87	－
その他	149	121
営業外収益合計	367	280
営業外費用		
支払利息	65	14
社債発行費	51	－
持分法による投資損失	347	222
出資金償却	67	70
投資有価証券運用損	－	260
その他	64	47
営業外費用合計	595	615
経常利益	3,023	5,051
特別利益		
固定資産売却益	－	46
匿名組合投資利益	48	－
受取保険金	110	－
貸倒引当金戻入額	－	20
その他	0	7
特別利益合計	160	73
特別損失		
前期損益修正損	4	－
固定資産売却損	0	0
減損損失	109	18
事務所移転損失引当金繰入額	－	392
災害による損失	99	－
制作中止損	502	－
その他	66	66
特別損失合計	782	477
税金等調整前四半期純利益	2,400	4,647
法人税等	2,219	2,448
少数株主利益又は少数株主損失（△）	△664	17
四半期純利益	845	2,181

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成20年４月１日 至　平成20年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成21年４月１日 至　平成21年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,400	4,647
減価償却費	861	668
減損損失	109	18
のれん償却額	267	43
貸倒引当金の増減額（△は減少）	87	△44
賞与引当金の増減額（△は減少）	△128	△169
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	△3	△122
売上値引引当金の増減額（△は減少）	1,211	－
退職給付引当金の増減額（△は減少）	17	25
事務所移転損失引当金の増減額(△は減少)	－	384
受取利息及び受取配当金	△129	△88
仕入割引	△24	△3
持分法による投資損益（△は益）	347	222
支払利息	65	14
売上債権の増減額（△は増加）	△18,434	2,255
たな卸資産の増減額（△は増加）	△194	△275
商品化権前渡金の増減額（△は増加）	482	487
仕入債務の増減額（△は減少）	13,886	614
未払消費税等の増減額（△は減少）	△188	542
預り金の増減額（△は減少）	－	△1,406
その他	775	△333
小計	1,409	7,482
利息及び配当金の受取額	134	94
利息の支払額	△54	△15
保険金の受取額	110	－
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△3,860	2,599
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,260	10,160
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	－	△10
有形固定資産の取得による支出	△4,526	△340
有形固定資産の売却による収入	－	615
無形固定資産の取得による支出	△250	△188
投資有価証券の取得による支出	△266	－
出資金の払込による支出	△39	△100
貸付けによる支出	－	△352
その他	△43	26
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,127	△350

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成20年４月１日 至　平成20年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成21年４月１日 至　平成21年９月30日）
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	2,523	－
長期借入れによる収入	1,200	－
長期借入金の返済による支出	△404	△61
社債の発行による収入	2,948	－
社債の償還による支出	△60	△360
少数株主からの払込みによる収入	－	60
配当金の支払額	△868	△838
少数株主への配当金の支払額	△24	－
その他	△1	－
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,312	△1,199
現金及び現金同等物に係る換算差額	85	△8
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,990	8,602
現金及び現金同等物の期首残高	12,693	11,181
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,703	19,784

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第２四半期連結累計期間(自　平成21年４月１日　至　平成21年９月30日)

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第２四半期連結累計期間(自　平成20年４月１日　至　平成20年９月30日)

	ＰＳ・フィールド（百万円）	ゲーム・フィールド（百万円）	スポーツ・フィールド（百万円）	映像・フィールド（百万円）	その他・フィールド（百万円）	計（百万円）	消去又は全社（百万円）	連結（百万円）
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	34,721	4,126	1,947	30	764	41,590	—	41,590
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	236	0	30	—	6	274	(274)	—
計	34,957	4,127	1,977	30	771	41,864	(274)	41,590
営業利益又は営業損失(△)	5,569	△ 1,619	△ 342	△ 522	152	3,237	14	3,252

（注）１　事業の区分は商品、サービス等の類似性を考慮してＰＳ・フィールド、ゲーム・フィールド、スポーツ・フィールド、映像・フィールド、その他・フィールドの区分になっております。

２　各事業の主要な内容

(1)　ＰＳ・フィールド：遊技機の仕入販売、企画、開発かつこれに付帯する関連業務等

(2)　ゲーム・フィールド：ゲームソフト等パッケージソフトの企画開発、販売等

(3)　スポーツ・フィールド：スポーツマネジメント他

(4)　映像・フィールド：映画製作事業、デジタルコンテンツの創出、著作権等の取得

(5)　その他・フィールド：アニメーションの企画、制作及びプロデュース等

３　事業区分の変更

従来、「その他・フィールド」に含めて表示していたスポーツマネジメント、映像事業につきましては、金額的重要性が増したため、第１四半期連結累計期間より「スポーツ・フィールド」、「映像・フィールド」と区分表示することに変更いたしました。

これによるセグメントに与える影響はありません。

当第２四半期連結累計期間(自　平成21年４月１日　至　平成21年９月30日)

	ＰＳ・フィールド（百万円）	スポーツエンタテインメント・フィールド（百万円）	モバイル・フィールド（百万円）	その他・フィールド（百万円）	計（百万円）	消去又は全社（百万円）	連結（百万円）
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	19,265	1,180	991	6	21,444	—	21,444
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	150	0	0	252	403	(403)	—
計	19,415	1,181	991	259	21,847	(403)	21,444
営業利益又は営業損失(△)	5,407	△ 162	247	△ 17	5,476	△89	5,386

（注）１　事業の区分は商品、サービス等の類似性を考慮してＰＳ・フィールド、スポーツエンタテインメント・フィールド、モバイル・フィールド、その他・フィールドの区分になっています。

２　各事業の主要な内容

(1)　ＰＳ・フィールド：遊技機の仕入販売、企画、開発かつこれに付帯する関連業務等

(2)　スポーツエンタテインメント・フィールド：スポーツマネジメント他

(3)　モバイル・フィールド：モバイルコンテンツ等

(4)　その他・フィールド：アニメーションの企画、制作及びプロデュース、映画製作事業等

３　追加情報

従来「スポーツ・フィールド」で表示していたスポーツマネジメント他事業につきましては、新たな事業展開に鑑み、第１四半期連結累計期間より「スポーツエンタテインメント・フィールド」に名称を変更しました。

従来「ゲーム・フィールド」で表示していたゲームソフト等パッケージソフトの企画開発、販売事業につきましては、子会社株式の売却等を行った事により、前連結会計年度において消滅しています。

従来「その他・フィールド」として表示していたモバイルコンテンツ事業につきましては、前連結会計年度に金額的重要性が増したため、「Webサービス・フィールド」に区分表示しましたが、携帯コンテンツにおける提供サービスの拡充等による事業展開に鑑み、第１四半期連結累計期間より「モバイル・フィールド」に名称を変更しました。

従来「映像・フィールド」で表示していたデジタルコンテンツの創出、著作権等の取得事業につきましては、当社を存続会社とする吸収合併により、前連結会計年度において消滅しています。また映画製作事業につきましては金額的重要性が減少したため、第１四半期連結累計期間より「その他・フィールド」に含めて表示しています。

なお、前第２四半期連結累計期間において当第２四半期連結累計期間の事業区分によった場合の事業の種類別セグメント情報は、次の通りです。

	ＰＳ・フィールド（百万円）	スポーツエンタテインメント・フィールド（百万円）	モバイル・フィールド（百万円）	ゲーム・フィールド（百万円）	その他・フィールド（百万円）	計（百万円）	消去又は全社（百万円）	連結（百万円）
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	34,721	1,947	736	4,126	59	41,590	—	41,590
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	236	30	—	0	6	274	(274)	—
計	34,957	1,977	736	4,127	66	41,864	(274)	41,590
営業利益又は営業損失(△)	5,569	△342	227	△1,619	△596	3,237	14	3,252

【所在地別セグメント情報】

前第２四半期連結累計期間(自　平成20年４月１日　至　平成20年９月30日)及び当第２四半期連結累計期間(自　平成21年４月１日　至　平成21年９月30日)

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が、90％を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。

【海外売上高】

前第２四半期連結累計期間(自　平成20年４月１日　至　平成20年９月30日)及び当第２四半期連結累計期間(自　平成21年４月１日　至　平成21年９月30日)

海外売上高が連結売上高の10％未満のため、海外売上高の記載を省略しています。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第２四半期連結累計期間(自　平成21年４月１日　至　平成21年９月30日)

該当事項はありません。

6.　その他の情報

特に記載すべき事項はありません。